

いろいろ大変だった アメリカ地質学会 ～オレゴン州ポートランド～

経営学部
古川 邦之

2009年10月16日～24日、アメリカ地質学会に参加するためオレゴン州のポートランドを訪れました。今回は、(1)学会前に開かれた巡検(調査旅行)と、(2)学会発表の様子について報告しますよ。

(1) 巡検(調査旅行)

僕たちの研究分野(地質学)の学会では、開催の直前が終了後に巡検と呼ばれるイベントがあります。これは簡単に言うと調査旅行でして、ある地域の地質の研究者を案内役にして、参加希望者を募ってその地域を案内してもらうという内容です。今回は、セントヘレンズ火山の巡検に参加しました。セントヘレンズ火山は1980年に大噴火を起こした火山で、あまりにも噴火規模が大きかったために、自らの山体も崩壊させてしまいました。噴火前は2950mあった標高も、噴火後には何と2550mになりました。つまり400mも崩壊したのです。そんなセントヘレンズ火山は、火山研究者のあこがれの場所なんですね。それにしてもこの巡検,,超ハードでした。

巡検前日の空はどんよりしていて、時折雨も降っていました。・・・嫌な予感です。こういう時の予感的中率ってすばらしいですね。当日、現地は大雨ですよ。日本なら確実に中止になるくらいの雨ですが(ましてや登山だしね)、アメリカ人のフロンティアスピリッツは見習うべきです。みんな笑顔です。

参加者は50人、そのうち欧米人は49人です。望んでもいないのに超アウエーのアジア人(中国人も韓国人もいない)の僕は、強制的に人気者になります。「なぜ参加したの?」「なぜ友達と来なかつ



写真1

た?」「Aichiってどこだ?」「なぜ経営学部なの?」しまいにはアメリカ人のおじいちゃんにHONDAのすばらしさについて語られます。ま、半分くらいは聞き取れませんでした。

登山は歩くスピードの速さによって4グループに分かれます。しかも自己申告制なので緊張感たっぷりです。僕は歩きにはそれなりの自信があるので、上から2番目のグループに入ります。保険のため1ランク下げたわけですが、これがグッジョブ!欧米人、速っ!!!について行くのがやっとです。しかも山道危なっ!!!写真1の右側崖下は、はるか遠くに見えます。しかも引かかる所がなさそう・・・。

雨は、来るな!と言わんばかりに激しさを増します。本当に痛い横殴りの雨ってやつですね。昼食用にサンドイッチを渡されており、どうやって食べるんだろう、と思っていると、やはり彼らは裏切りません。「じゃあランチにしよう!」というリーダーの声とともに、みんなサンドイッチを取り出します。そして横殴りの雨を背に、立ったまま、狭い登山道に一列になって食べます(写真2)。



写真2

びっしょびしょのサンドイッチは、ほんのり悲しい味がしました。

この雨の中、山頂がどこなのかもわからなかったのですが、帰路には少しだけ雨がやみ、雲が晴れ、山頂を望むことができました。写真3はその山頂です。1980年以前は、富士山のような非常にきれいな形だったのですが、噴火により崩壊し、山頂付近には巨大な穴があいているのが分かります。山頂が見える時間は短かったのですが、脳裏にしっかり焼き付けてやりました。



写真3

結局、全行程13.6km、6時間ほどのハードな登山でした。何がすごかって、この登山中、休憩は昼食時だけだったこと。しかも休憩にしては辛かったなあ。欧米人の体力は本当に驚愕でした。でもセントヘレンズ火山の迫力に圧倒された良い巡検でした。

(2) 学会の様子

今回は、僕の研究発表の前にひと仕事がありました。アメリカ地質学会では、各国に数人の広報担当がいます。で、僕がその係なんですね。その学会期間中に、広報お疲れさんという意味で、朝食会という名の会議があり、それに招集されていたんです。要するに各大学でのアメリカ地質学会の知名度を上げるには、とかそういう会議です。その会議が巡検の翌日だったんです、、、ま、書かなくても予想できると思いますが、完全に寝過ぎましたね。つまり日本代表1名欠席！いろいろ言い訳はあるのですが、＜敗因1＞前日の大雨の中の登山によるスーパー疲労。＜敗因2＞目覚まし時計のamとpmを間違えた。早朝集合なの

にpm7時にセットを、、、(主に敗因2ですね)。

気を取り直して学会発表の話。僕たちの学会の発表方法は2つあります。口頭発表とポスター発表です。口頭発表は、部屋の前の壇上に発表者が立って20分程度の研究発表をします。聴衆はいすに座って聞きます。授業みたいな感じですね。ポスター発表は、体育館みたいな大きな会場に、縦1.5m、横2m程のボードがたくさん並べられ、与えられた1枚のボードに発表内容のポスターを貼ります。発表者はその前に立って、研究内容を聞きたい人がふらっと来たら、説明をします(写真4)。発表に時間制限はありません。要するに口頭とポスター発表は、興味があるないにかかわらず大勢に聞かせるか、興味のある人だけに説明するのかの違いですね。口頭発表の方が主流だと思われるがちですが、僕を含めほとんどの人はポスター発表です。僕の発表は、学会開催期間のうち最終日でした。最終日の発表って悲劇なんです、、、

欧米で開かれる学会のポスター発表は、みんなフレンドリーで非常におもしろいです。その大きな会場では定期的にビールやワインが振る舞われます。参加者はお酒を手にポスターを見て回り、興味のある内容のポスター発表者と議論を始めます。発表にはコアタイムという時間があります。これは、その時間帯には必ずポスターの前に立っていなさい、という時間の事です。僕のコアタイムは16時～18時でした。

学会最終日、要するに僕の発表日、参加者達は各国に帰っていきます。多くの方はコロコロを引いています。飛行機の時間が迫ります。一人、また一人といなくなり、会場は閑散としていきます。そしてこの会場は次の日の早朝から、別の団体の



写真4

会議に使われます。やっぱり撤収作業は早めがいいですね！コアタイムが16時からだというのに、15時にはドリルの音が響きやがります。店じまいだよ、と言わんばかりにひとつひとつ看板が下ろされていきます。何度も言いますが僕の発表は16時からです。

17時。ここが流行りのシャッター商店街ってやつですか？僕の対面の若いアメリカ人研究者も、あまりの人の少なさにあきれています。僕と彼の間の通路は人が通りません。何度も目が合うし暇なのでその彼と話します。「日本人か？珍しいね。友達と来なかったの？」と、いつも通りのたいしてはずまない会話が進みます。でもひとつ覚えしました、人通りのない通りのことを英語では *deserted street* と言うそうです。Desert は砂漠ですが、動詞では「見捨てる」とかいう、その状況にぴったりの意味があるそうです。とりあえずお互いに写真の撮りあいっこをします（写真5）。そんなことをしていると、僕の左右の発表者はいつの間にかポスター撤収。帰宅です（写真6）。

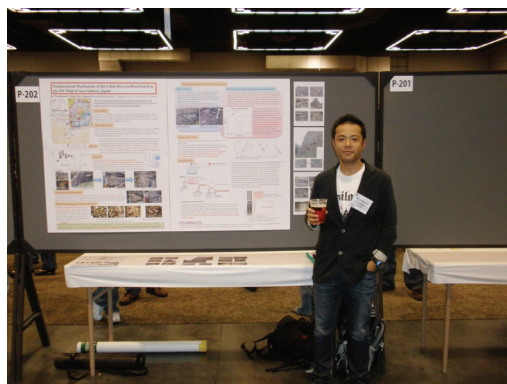


写真5

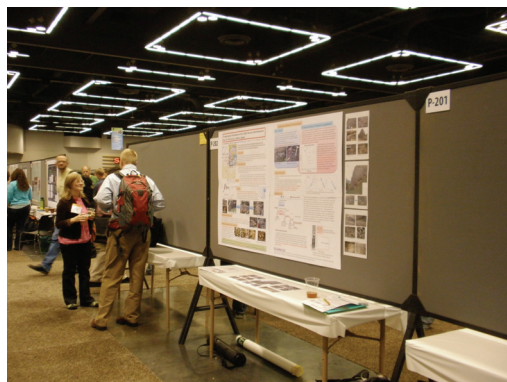


写真6

そして僕の左隣のボード前（写真6奥）では全く関係ない人達がビールを飲んでいました。BAR になっちゃったよ。

そんなこんなで発表終了です。最終日という発表条件は最悪でしたが、嬉しいこともあったんですよ。僕らの分野では超有名なアメリカ人研究者がポスターを見に来てくれて、説明をすると非常に興味深く聞いてくれました。内容についても良い結果だ、とお褒めの言葉を頂きました。今回の学会はその言葉だけで満足ですね。また次回もこの学会に参加したいですよ、もちろん発表は最終日以外で。

英語の辞書について（3） コロケーション辞典

法学部
北尾 泰幸

1. はじめに

語研ニュース No.21 で英和辞典について、前号（No.22）では英英辞典について述べたが、今回は語と語の結びつきである「連語、コロケーション」（*collocation*）がよくわかる、英語を書くときに重宝するコロケーション辞典について紹介したいと思う。

2. コロケーションとは

学生諸君は日本語の「する」という動詞を英語で言うとうなるかと尋ねられたら、何と答えるだろう。「do じゃないですか。」と答える学生がいると思う。確かに「宿題をする」（*do one's homework*）、「皿洗いをする」（*do the dishes*）、「研究する」（*do research*）のように *do* を使う場合もある。しかし、どんなときにも *do* が使えるのだろうか。少し考えると、*have a meal*（食